

東電と規制委

6月 東電の経営陣が交代
 7月10日 東電の会長、社長らと規制委が意見交換 規制委は、「福島第1原発の廃炉を主体的に取り組み、やりきる覚悟と実績を示すことができない事業者に、柏崎刈羽原発の運転をする資格がない」と批判。
 8月25日 東電が意見交換に関する回答を規制委に提出。規制委から出された汚染水処理や廃棄物などの具体的な課題の言及なし。
 30日 東電の会長、社長らと規制委が「回答」をもとに2回目の意見交換。
 9月6日 田中俊一委員長は「適格性を否定する状況ではない」と、一転して東電を評価。

再稼働許されぬ

原子力規制委員会が6日、新潟県にある柏崎刈羽原発6、7号機の再稼働をねらう東京電力に対し、原子力事業者としての「適格性について否定する状況はない」と評価しました。規制委は13日にも原発の新規制基準に「適合」とする審査書案をまとめようとしています。しかし、規制委の対応には二つの大問題があり、再稼働にお墨付きを与えることは到底許されません。(松沼環)

規制委 腰砕け

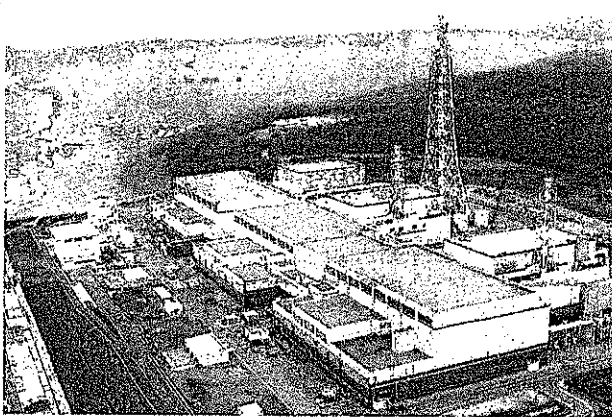
「おとなの頭で」と合理化
 一つは、規制委のこれまで「適格性」をめぐっての態度が、野並みすけ替えられることだ。田中俊一委員長などから不信の音が上がりました。
 東電は今後の事業計画を定めた「新々・総合特別事業計画」を5月に策定。それに伴い6月に福島原発が交代しました。
 「新々総特」には、他電力などとの原子力部門の再編・統合の方針が示されています。これに規制委は強く反対。新規制基準の審査を終えていた柏崎刈羽原発6、7号機は、運転主体の変更が認められず、また、東電で事故時対応を
 知る経営陣が、野並みすけ替えられることだ。田中俊一委員長などから不信の音が上がりました。
 規制委は7月10日、新経営陣の川村隆会長、小早川智明社長ら呼び意見交換。そこで福島第1原発の廃炉への取り組みなど、汚染水の取り扱いなどの具体的な問題を示して「主体性が見えない」と強硬な批判し、「やりきる覚悟と実績を示す」という回答を求めました。
 さらに、全員で田中委員長は「姿勢を見せるだけで信用しろ」という旨の口話

原子力規制委員会が、福島原発事故を起した東電に対し、柏崎刈羽原発を動かす「適格性」を容認しない
 原発問題住民運動全国連絡センター
 一筆頭代表委員・原野事故被害いわき市民訴訟原告団長



伊東 達也さん

福島思い怒り禁じ得ない
 替えられた東電の新会長に、委員代表が「柏崎刈羽を動かすこと事故の責任を果たさうというのには、一定の理解ができる」と述べた



東京電力柏崎刈羽原発の6、7号機。手前から7号機、6号機、5号機が確認できる。

「おとなの頭で」と合理化
 田中の会見で、具体的な回答はこれ以上求めないのか、実績がまだ示されていないのではないか、とほとんど批判らしい声は上がっています。

適格性欠く事例が次々に

一つは、東電の経営陣が再稼働の理由にすることが規制委の任務の逸脱であり、許されないということです。
 安倍政権と一体で方針化
 6日の議論では、次期委員長になることが決まっている田中委員長代理は「事故の当事者であることが、柏崎原発を運転する上での負の効果を軽減する」として柏崎刈羽原発の再稼働を表明する意向を示しています。柏崎刈羽原発を「再稼働させれば、約400億〜900億円のコストを減らすことが可能」という数字まで挙げています。

福島思い怒り禁じ得ない
 委員代表が「柏崎刈羽を動かすこと事故の責任を果たさうというのには、一定の理解ができる」と述べた

「おとなの頭で」と合理化
 田中の会見で、具体的な回答はこれ以上求めないのか、実績がまだ示されていないのではないか、とほとんど批判らしい声は上がっています。

安倍政権と一体で方針化
 6日の議論では、次期委員長になることが決まっている田中委員長代理は「事故の当事者であることが、柏崎原発を運転する上での負の効果を軽減する」として柏崎刈羽原発の再稼働を表明する意向を示しています。柏崎刈羽原発を「再稼働させれば、約400億〜900億円のコストを減らすことが可能」という数字まで挙げています。

福島思い怒り禁じ得ない
 委員代表が「柏崎刈羽を動かすこと事故の責任を果たさうというのには、一定の理解ができる」と述べた